学位被授与者氏名	上野　隆子（うえの　たかこ）
論文題目	Pudd’nhead Wilson 　―秘められた社会批判：時を超えて交わるもの―
論文審査結果の要旨	トウェイン研究においては、人種差別批判に焦点を当てた論考が無数に世に問われている。しかし、トウェイン文学を奴隷制の視点から考察する際には、作者の書簡や自伝、伝記の援用と共に行うのが常套手段であり、奴隷制に関する歴史的事実や南部文化論からの援用と共に考察がなされるケースは、ほとんど見受けられない。その一方で、本論文においては、ロクシーとトムの黒人性や白人性の分析、奴隷を規定していた南部の法律などを分析する際に、歴史書からの多彩な援用が論考とかみ合う形で適切になされており、この点は新機軸の考察となっている。さらに、トウェインの作品執筆時に存在した黒人差別に関する現実が、作品の舞台となっている、作品執筆時よりも数十年前の過去には存在していなかったにもかかわらず、存在するという架空の状況設定を導入することにより、執筆当時の南部社会の直接的な批判をトウェインが意識的に回避した事実を指摘している。この重要な指摘は、奴隷制に関する歴史的事実の詳細な分析を行うことによって説得力を得ており、この点は高く評価できる。以上の諸点を勘案して、本論文はA評価とする。 　平成28年2月22日に、北九州市立大学北方キャンパス本館E-313教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(英米言語文化)として十分な内容であると判定した。